

# 公開実用平成 4-73446

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-73446

⑬ Int.Cl.<sup>9</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)6月26日

B 23 Q 15/00  
17/00  
41/08

F 9136-3C  
D 7632-3C  
Z 8107-3C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 加工データ表示装置

⑯ 実 願 平2-114097

⑰ 出 願 平2(1990)11月1日

⑱ 考 案 者 松 本 昭 広島県広島市安佐南区紙園3丁目2番1号 三菱重工業株式会社広島工場内

⑲ 出 願 人 三菱重工業株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目5番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 北 西 務 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

加工データ表示装置

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 加工ワークを搭載するパレットにＩＣカード等よりなる加工データの記憶素子を取付け、該記憶素子に対向して、複数の加工機械よりのワーク毎の加工データを前記記憶素子に書き込むための書き込み素子を配設して、これをデータ送信用書き込み装置に接続し、パレット上のワークを複数の機械ラインで加工後、前記記憶素子に入力された加工精度、加工機の判別、加工順序などの加工データをこれと対向して配設した読み取り素子を介してデータ読み取り装置で読み取り、さらにこれと接続した表示装置またはプリントアウト装置により表示し得るよう構成したことを特徴とする加工データ表示装置。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は複数の機械ラインで加工されたワーク

(1)

568

実開4-73446

の加工後の加工データの表示装置に関する。

〔従来の技術〕

従来ワーク加工用のプログラムデータをパレット上に設けた記憶装置に記憶させておき、加工に先立ちプログラムを機械側に転送する装置は存在していたが、加工後の加工データ（加工精度、加工機械の判別 etc）を記憶し表示する装置は存在していない。

〔考案が解決しようとする課題〕

ところで前述のように従来複数の機械ラインでワークを加工する場合、加工後に計測した加工精度、加工機の判別と加工機の加工順序などの加工後の加工データをパレット上に記憶する装置は存在していないため、複数機械によるワーク毎の加工精度のデータプロットおよび加工機械との関連付けによるワーク加工不良の原因究明が困難である不具合があった。

本考案は上記各不具合点を解消した新たな加工データ表示装置を提供しようとするものである。

〔課題を解決するための手段〕

このため本考案の加工データ表示装置は、加工ワークを搭載するパレットにＩＣカード等よりなる記憶素子を取付け、該記憶素子に対向して、複数の加工機械よりのワーク毎の加工データをその都度前記記憶素子に書き込むための書き込み素子を配設してこれをデータ送信用書き込み装置に接続し、パレット上のワークを複数の機械ラインで加工後、前記記憶素子に入力された加工精度、加工機の判別、加工順序などの加工データを、これと対向して配設した読み取り素子を介してデータ読み取り装置で読み取り、さらにこれと接続した表示装置またはプリントアウト装置により表示し得るよう構成したことを特徴としている。

#### 〔作用〕

上述の本考案の加工データ表示装置は、各々の機械より加工データをその都度パレット上に設けたＩＣカード等の記憶素子よりなる記憶装置に書き込み、加工後この記憶装置のワーク毎の加工データ及びどの機械で加工されたかのデータを読み取り装置で表示またはプリントアウトすることに

より加工精度の判別、不良ワークの選別、および不良加工の発生した加工機の判別ができる。

〔実施例〕

以下図面により本考案の1実施例について説明すると、第1図は本考案装置における加工データ書き込み状態を示す概略図、第2図は同装置における加工データの読み取り及び表示状態を示す概略図である。

これらの図において、1は加工ワークでパレット2上に搭載される。

3はパレット2の側部に取付けられたICカード等よりなる記憶素子で、これと対向配置した書き込み素子4により加工データは記憶素子3に書き込まれる。

5は書き込み素子4にデータを送信する書き込み装置である。

6はワーク加工後記憶素子に記憶されたワーク毎の加工データを読み取るための読み取り素子で、この読み取り素子6を介して加工データはデータ読み取り装置7に読み取られる。8はこの読み取

り装置 7 のデータを表示する表示装置、9 は表示装置 8 のデータをプリントアウトするための装置である。

〔 考案の効果 〕

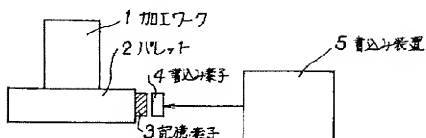
以上述べたように本考案の加工データ表示装置によれば、複数の機械ラインでバレット上のワークを加工したとき、加工後に計測したワーク毎の加工精度のデータプロットおよび加工機械との関連付けによるワーク加工不良の原因究明が容易となった。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の 1 実施例装置における加工データ書き込み状態を示す概略図、第 2 図は同装置における加工データ読み取り及び表示状態を示す概略図である。

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1 … 加工ワーク、     | 2 … バレット、   |
| 3 … 記憶素子、      | 4 … 書き込み素子、 |
| 5 … 書き込み装置、    | 6 … 読み取り素子、 |
| 7 … 読み取り装置、    | 8 … 表示装置、   |
| 9 … プリントアウト装置。 |             |

第1図



第2図

